

年 組 番 号前

「ハボちゃん作文」の書き方

「「ハボちゃん作文」は4コママンガを読み、その話の筋を書くだけではなく、マンガに書かれていないことも言語化する作文だ。

次の5つの力を養うことねらいとする。

文章力（簡潔に的確に書く。文章構成を工夫して書く。時間内に書く。）

洞察力（マンガに描かれていない「おもしろさ」を洞察する。）

表現力（正しく原稿用紙を使う。文字を丁寧に書く。漢字を適切に使う。）

書き方 マンガを右側ページに貼り、左側のページから書き出すこと。

詳しく細かく書くのではなく、どんなことが描かれてあるのかを書く。

目安はだいたい160～190字以内で書く。あまり長くならないこと。

はじめの1文はマンガの設定ができるだけ短く単純に書く。

直接話法を間接話法で書く。言つた言葉そのまま書くのではなく、言つた内容をまとめて書く。

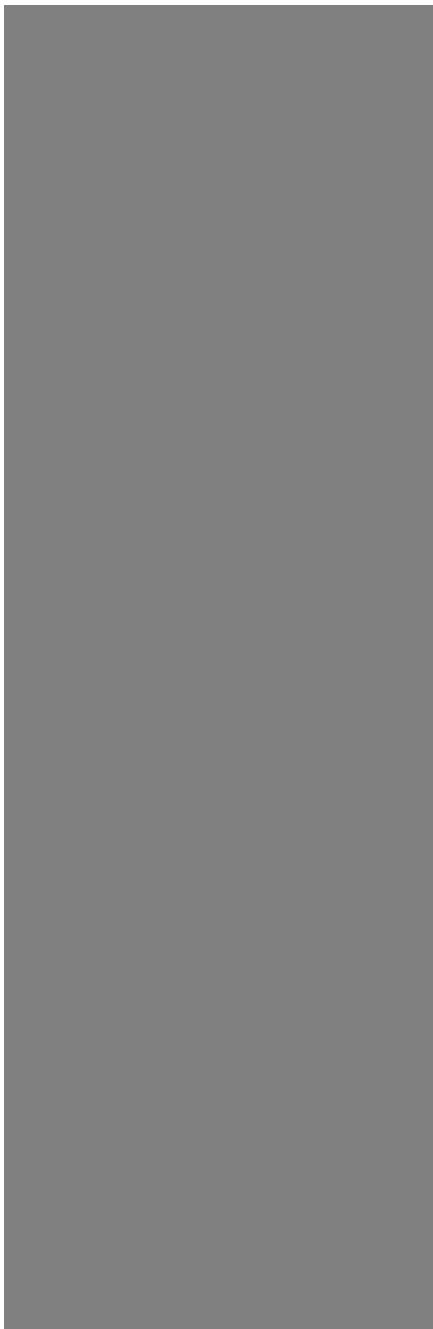
1文につのと。だらだらと文を長くさせない。

体言止めにしない。[×]「みんなに問題を出した先生。」「先生はみんなに問題を出した。」

マンガの表情から心情を読みとつて理由や原因と提案した。校長先生は廊下で見ていて授業内

因と結びつけて説明する。
行動や表情の変化があったら、その理由や原因（オチ）を「実は」「なぜなら」とちからかの言葉を使い説明する。

の部分で改行する。（全体で2段落）
文章の最後でオチやおもしろさを説明して締めくくる。その後をだらだら続ける。
書き上げたら必ず読み直し、推敲する。誤字脱字、書き忘れ、原稿用紙使用方法の間違いが5カ所以上で再提出。
感想や意見は必要ない。マンガそのものを文字で描写する。
以上のことが守られていない場合、「再提出となり、全文書き直しとなる。



^⑤ 小学校の図工の時間、先生は不思議な形の粘土の塊をみんなに見せた。そして^⑥どのように細工すれば猫になるのかという問題を出した。子どもたちは、^⑦「口を付けたりしっぽを付けたりすればよ」と提案した。校長先生は廊下で見ていて授業内

容に^⑧感心してほほえんでいた。
^⑨しかし校長先生は^⑩すつこけてしまった。
^⑪ 図工の先生は「ネコ」というタイトルを付

^⑫ なければいいと教えたからだ。^⑬ (180字)